

市民と専門家、行政の協働による 名古屋ため池生きもの調査

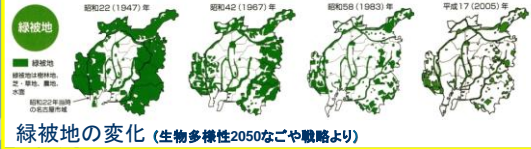
野呂達哉
名古屋環境局生物多様性企画室



はじめに

名古屋市のような都市部では、生活様式の変化とともに宅地化や都市化が急激に進行した。

その結果、緑地やため池、水田といった生きもの住み場所は著しく減少した。



残された生きもの住み場所も、分断・孤立化し、質的な劣化が進行している。



さらに追い打ちをかけるように、**侵略的外来生物**が各地に放され、分布を拡大した。



名古屋のような都市部では、かつて普通にみられた在来の生きものも、現在では絶滅危惧種とされることも珍しくはなくなりました・・・



このため、残り少ない生きもの住み場所を保全することは急務である。

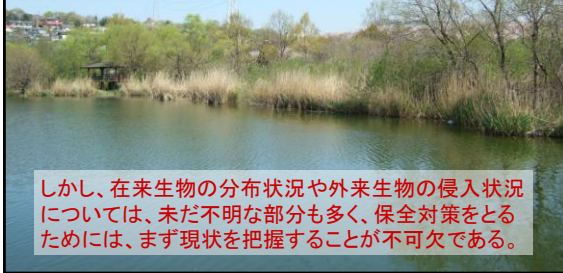
一方、市内には東部丘陵地を中心に111個ものため池が残っている。

これほど多くのため池が残る大都市は他に例がない。



環境科学研究所作成 (平成15年8月現在のリストに基づく)
※なお、この分布図の作成には、国土数値情報(1:5万縮尺) 行政区域 (国) データ (愛知県) を利用しました。

これらのため池とその周辺地域では、メダカやカスミサンショウウオ、トウカイコモウセンゴケといった絶滅危惧種もみられる。ため池と周辺の緑地は生きものにとっての「ノアの箱舟」的な役割を担っている。



しかし、在来生物の分布状況や外来生物の侵入状況については、未だ不明な部分も多く、保全対策をとるためには、まず現状を把握することが不可欠である。

市民調査

地域の生きものや身近な自然について、地域住民が中心となって調査を行う。



バイオ・ブリッツ (Bioblitz)

バイオ・ブリッツは、科学者やボランティア、また地域の人々が集まり、できるだけ多くの植物や動物を見つけ、その種を判別して学ぼうという1日のイベント。



市民調査の利点

- ・地域住民の参加によりきめの細かい調査が可能。
- ・住んでいる地域のことなので、情熱や責任をもった継続的な調査や保全活動が期待できる。
- ・様々な立場や年齢層の交流がある。
- ・他地域からの参加も見られるため、地域間の交流にも繋がる。

必要な協力

- ・調査では調査方法や標本の作成指導、採集した生物の同定、保全計画等の立案等ができる専門家の協力が不可欠。
- ・調査や保全対策の具体的な実施のためには、行政の協力も必要。

「名古屋ため池生きものいきいき事業」

環境省では、平成20年度より、地域における生物多様性の保全・再生に資する活動等を支援する「生物多様性保全推進支援事業」を創設。

平成20年度、名古屋市の「名古屋ため池生きものいきいき計画事業」が採択された。

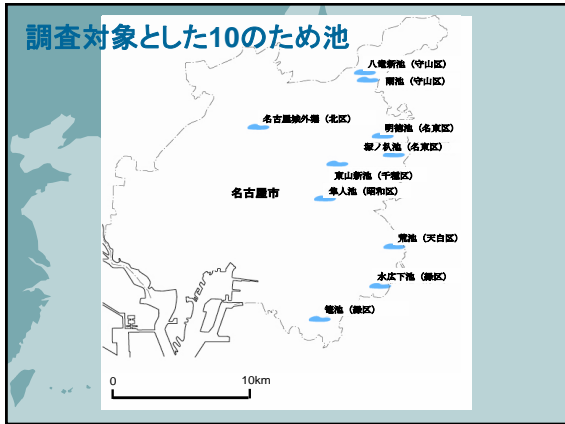


同時に名古屋ため池生物多様性保全協議会を設立、市内10のため池の生物調査体制がスタートした。

活動の目的と概要

人とため池とのネットワークを再構築することにより、ため池の生物多様性を保全再生していくことを目的とする。





生きもの調査で対象とした分類群

- 植物
- プランクトン類
- 貝類
- 昆虫類
- 甲殻類
- 魚類
- 両生類
- 爬虫類
- 鳥類
- 哺乳類

対象とした生物の分類群は
広範囲にわたる。

池の中の生物だけではなく、
池周辺の陸地に生息する
ものも対象とした。

個別のプロジェクト

- ・名古屋城外堀のオニバス復活(埋土種子調査)
- ・外来性スイレンの除去実験(東山新池、竜池、塚ノ丸池)
- ・隼人池マメナシの再生
- ・池干し(竜池、隼人池)による外来生物の除去
- ・モツゴ産卵床の設置(隼人池・八事小学校と) など

調査における役割分担

調査リーダー ← 協力団体、各分野の専門家(大学研究者も含む)
専門知識を有し、調査の指導や同定の方法、標本の管理、報告書の作成などを行う。

調査スタッフ ← 構成団体、地元の保全団体や愛護会
各池の案内や説明、事前の準備や調査員参加状況のチェック。

市民調査員 ← 一般募集で集まった市民や学生
事前の講習を受け、調査リーダー指導の元、ため池で調査を実施する。また、同定会や標本作成会を受け、実際に標本を作成する。

協議会の構成と協力団体

協議会の構成団体

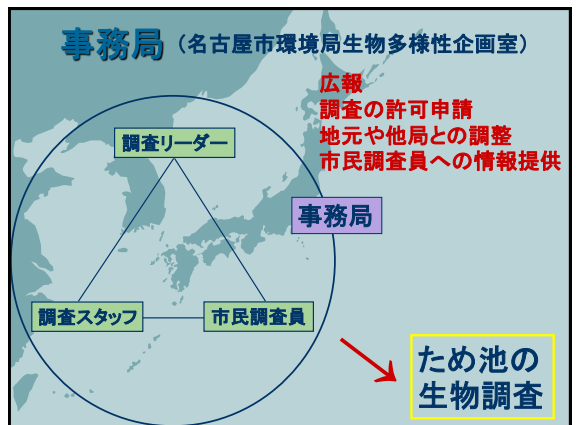
- ・名古屋ため池調査実行委員会
- ・なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 (相生山緑地オアシスのもりくらぶ、愛知守山自然の会、両池ホテルの会、新池ふるさとクラブ、水原の森と八竜湿地を守る会、雑木林研究会、滝ノ水緑地公園愛護会、なごや東山の森づくりの会、花水緑の会、名東自然倶楽部、明德公園愛護会)
- ・なごや環境大学実行委員会
- ・八事学区連絡協議会
- ・隼人池を美しくする会
- ・名古屋市(環境局、緑政土木部、関係区役所)

地元で保全活動を推進する団体

協力団体

- ・ため池の自然研究会(主に植物)
- ・名古屋昆虫同好会(昆虫)
- ・日本カメ自然誌研究会(両生類、爬虫類)
- ・日本野鳥の会愛知県支部(鳥類)
- ・三河淡水生物ネットワーク(水生甲殻類、魚類)

各分野の専門家





成果

- 市民調査員の登録者数は300名以上
- 生物調査にはのべ約2000名の市民が参加
- 採集・捕獲された生物の標本作成・収蔵
- ため池における外来種や希少種の分布状況の把握
- 外来生物の除去
- 池干しと効果の検証
- 団体間や他地域、様々な世代の市民の交流
- 生物多様性についての普及啓発

成果①・確認した生きものの種数

ため池調査で確認された生き物の種数
(植物は標本整理中で未同定のものもあるため除いた)

分類群	種数	備考
貝類	17	陸生種も含む
甲殻類	17	水生種のみ、プランクトン類も含む
昆虫類	805	-
魚類	15	-
両生類	4	-
爬虫類	10	-
鳥類	81	-
哺乳類	11	-
合計	960	

これに植物の結果が加わると、わずか1年間の市民調査で1000種以上のいきものが確認されたことになる。

成果②・標本の収集

整理された植物の標本は520点、昆虫類の標本については5,388点収集された

未整理のものも含めると、合計6000点近い標本を収集した

名古屋ため池調査のロゴマーク



成果③・報告書とガイドブックの作成



今後の課題

- 得られたデータを使って、実際の保全活動をどのように進めて行けばよいか
- 各ため池で一回きりの調査で終わるのではなく、継続的なものにするにはどうしたらよいか
- 他のため池、他の生態系へと広がりをもたせるには
- さらに多くの分野の専門家、研究者によるサポートを得るには
- 得られたデータや標本を管理する場所と人材の確保
- 得られた膨大なデータの解析・検証を誰がどのように行うのか
- 今回の調査で使用した調査器具の保管など



今後、今回の活動を継続し、さらに広げるためには新たな人材と拠点となる施設が不可欠である。

今回の調査に参加した団体

- ・ため池の生きもの調査市民調査員
- ・名古屋ため池調査実行委員会
- ・なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
(相生山緑地オアシスのもりくらぶ、愛知守山自然の会、雨池ホテルの会、新池ふるさとクラブ、
- 水源の森と八竜湿地を守る会、雑木林研究会、滝ノ水緑地公園愛護会、
- なごや東山の森づくりの会、花水緑の会、名東自然倶楽部、明徳公園愛護会)
- ・なごや環境大学実行委員会
- ・八事学区連絡協議会
- ・草人池を美しくする会
- ・名古屋市(環境局、緑政土木局、関係区役所)
- ・ため池の自然研究会(主に植物)
- ・名古屋昆虫同好会(昆虫)
- ・日本カメ自然誌研究会(両生類、爬虫類)
- ・日本野鳥の会愛知県支部(鳥類)
- ・三河淡水生物ネットワーク(水生甲殻類、魚類)
- ・愛知学泉大学、中部大学、名古屋コミュニケーションアート専門学校、東海高校、八事小学校の各学生・生徒